

# 九州医師会連合会学校医会評議員会及び総会、 第55回全国学校保健・学校医大会、 九州学校検診協議会専門委員会及び役員会

理事 當間 隆也



令和6年11月8日(金)～11月10日(日)の3日間、九州医師会連合会学校医会評議員会及び総会、第55回全国学校保健・学校医大会、九州学校検診協議会専門委員会及び役員会が、宮崎県のシーガイアコンベンションセンターで開催された。概要と感想を紹介する。

## 1日目：九州医師会連合会学校医会評議員会 及び総会

令和5年度の事業、歳入歳出決算、事業経過についての報告があり、令和6年度の事業計画、負担金、九州ブロック学校保健・学校医大会開催担当県に関する件の議事がなされ了承された。

## 2日目：第55回全国学校保健・学校医大会

「未来ある子ども達のために、いま学校医ができること」をメインテーマに開催された。

### (1) 分科会

午前は5つの分科会で全国から56の演題が

あり、沖縄県からは、琉球大学病院神谷武志先生の「沖縄県の運動器検診の現状と課題について」と、真栄城耳鼻咽喉科真栄城徳秀先生の「沖縄県における耳鼻咽喉科学校健診の現状・大きな問題点・今後について」の発表があった。現場の学校医の声を拾い上げる必要があること、山積した多くの課題の解決に積極的に取り組む必要があることを実感した。

### (2) 開会式

宮崎県知事と宮崎市長は、用意された挨拶文を読み上げるのではなく、自分の言葉で祝辞を述べていたのが印象的であった。特に医師でもある清山知憲宮崎市長のお話しは的確で、医療を理解する行政のトップがいることを羨ましく感じた。

### (3) 表彰式

日本医師会長表彰があり、沖縄県からは、わんぱくクリニックの呉屋良信先生(学校医)、県立知念高等学校の上原厚子先生(養護教諭)、村立伊是名小学校の儀保君枝先生(学校関係栄

養士)が受賞なされた。医師会と学校(教育委員会)がしっかりとした関係にあるとことを再認識したので、沖縄県でも相互に協力し合い、より良い関係性を築きたいと感じた。

**(4) シンポジウム**

「学校医の魅力、やりがいとは何か～現状と課題を踏まえて～」をテーマにシンポジウムが行われた。

1) 基調講演は、学校医の推薦が困難になってきているという現状から、「日本医師会作成『学校医のすすめ ～そうだったのか学校医』発刊にあたって」を、弓倉整先生がなされた。20年ぶりの日本医師会版の学校医の手引き書であり、現在の学校保健の課題等の指摘等があった。

2) 小児科医、耳鼻咽喉科医、眼科医、養護教諭それぞれの立場からの発表があった。主にやりがいが主題であったが、正直、学校や児童、保護者等からの協力や感謝等が不可欠だと感じた。それを得るため、我々はどうすべきなのか、、難題である。

**(5) 特別講演**

「夢を夢で終わらせない競泳人生」と題して、松田丈志選手を指導した元オリンピック競泳日本代表コーチ、久世由美子氏が講演した。とにかく基礎を大切に繰り返すこと、科学的な指導も必要だが心での指導がもっと大事であること等のメッセージをいただいた。

**3日目：九州学校検診協議会専門委員会及び役員会**

4つの専門委員会での以下の協議が行われた。

**1) 心臓部門**

- ① 児童生徒(6歳から19歳)の心肺蘇生事例調査の再開について
- ② 統一病名調査について

**2) 腎臓部門**

- ① マニュアル第5版公開後について
- ② マニュアル第5版ダイジェスト版について

**3) 成長発達・小児生活習慣病等部門**

- ① 各県における動向について
- ② 成長曲線肥満度曲線の活用に関する手引きについて

**4) 運動器部門**

- ① 検診時の着衣等について
- ② 整形外科医による運動器検診について

私は、4) 運動器部門の専門委員会に参加したが、非常に活発な意見交換、前向きな討論がなされた。普段当たり前に行なっている学校検診が、このように地道に真剣に真摯な討論の上に成り立っていることはとても驚きであったし、この努力を無駄にはしてはいけないと強く思った。子ども達の健康に寄与するために、医師会と教育委員会はより一層理解し合い、より効果的な協力関係を作り上げることが必要であり、そのためにできることから始めたいと思う。学校医に関する様々なことを知ることができ、非常に有意義な3日間であった。

